

東燃ゼネラル石油株式会社

2004年1-9月/7-9月期業績および年間予想

2004年11月18日



見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通し、戦略などは、日本経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、市場の競争状況などにより大きく影響されます。そのため、実際の業績はこれら見通しとは大きく異なる可能性がありますので、これらの計画、見通しに全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

業績ハイライト

■ 2004年1-9月期の営業利益は昨年同期比で増加

» 化学部門が連結利益に大きく貢献

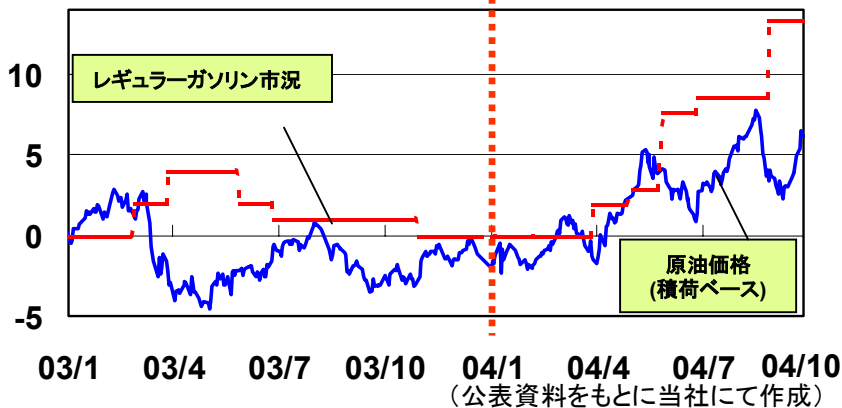
- すべての生產品目において好業績
- 活発な需要が製品マージンを下支え
- スペシャルティー製品も伸長

» 石油部門ではマージンがやや減少したものの、9月に大幅な回復

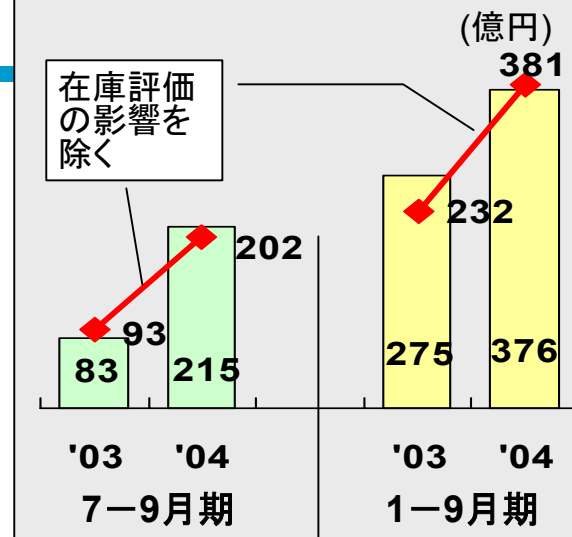
- 9月に原油価格が下落したが、販売価格への反映には時間差があることからマージンが改善
- 原油価格、収益ともに、引き続き変動幅が大きい状況

» 配当の見直しに変更なし

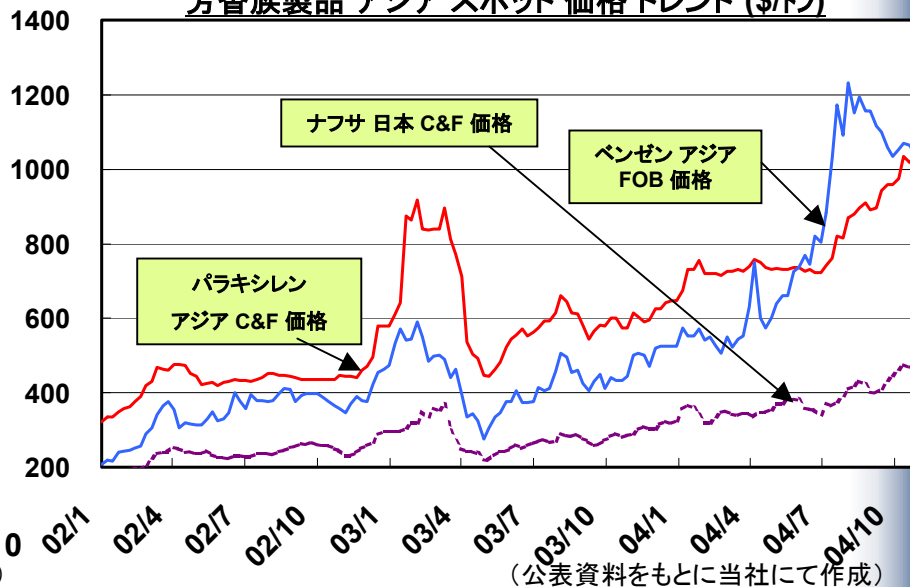
原油およびガソリン市況
(円/リッター, 0='03年の年初における価格)



連結営業利益



芳香族製品 アジア スポット 価格トレンド (\$/トン)



販売数量・設備稼働率

- 需要が旺盛だった2003年1-9月期に比べ、多くの製品で販売減
- SSネットワークの効率化により、長期的な収益性を強化
- 販売については収益性を重視し、製品輸入についても全社的観点から採算性を管理
- 定期修理のため、設備稼働率は前年同期比で低下

(単体、バーターを除く)

	(千KL)	'03 1-9月期	'04 1-9月期	増減	業界 増減
製品	ガソリン	8,922	8,908	-0.2%	2.5%
	灯油	3,040	2,793	-8.1%	-5.0%
	軽油	3,658	3,518	-3.8%	-0.3%
	A重油	3,218	3,210	-0.2%	-1.4%
	C重油	2,695	2,656	-1.4%	-14.1%
	LPGその他	2,666	2,515	-5.7%	N/A
部門別	販売部門(セネラルブランド向)	6,613	6,357	-3.9%	
	精製部門(エッソ/モービル/エクナス向)	17,588	17,244	-1.9%	
	小計	24,199	23,601	-2.5%	-2.6%
	ナフサ	2,245	2,421	7.8%	
	化成品	793	811	2.2%	
	その他*	8,881	7,867	-11.4%	
	総計	36,118	34,700	-3.9%	
	設備稼働率(単体/連結)	85%/82%	82%/79%		83%

*"その他": 潤滑油、原油、輸出、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む

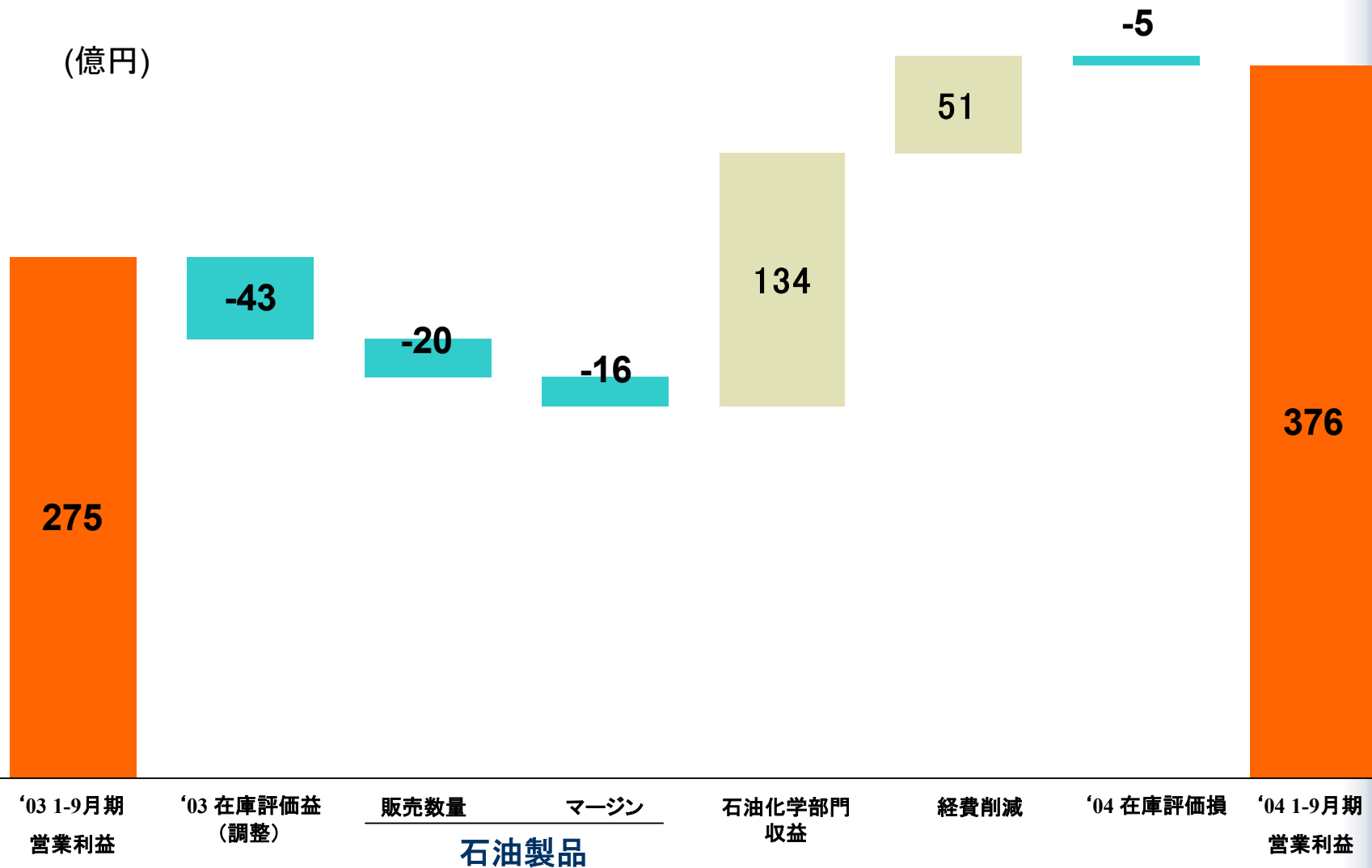
損益計算書 [1-9月期, 連結]

(億円)	'03 1-9月期	'04 1-9月期	増/(減)
売上高	15,817	17,030	1,212
営業利益	275	376	101
経常利益	310	411	101
特別損益	40	24	-15
当期純利益	214	267	53
在庫評価の調整	-43	+5	48
調整後営業利益	232	381	149
石油部門 他	101	116	15
石油化学部門	131	265	134

営業利益の要因分析

[1-9月期業績の比較、2004年 vs. 2003年; 連結]

(億円)



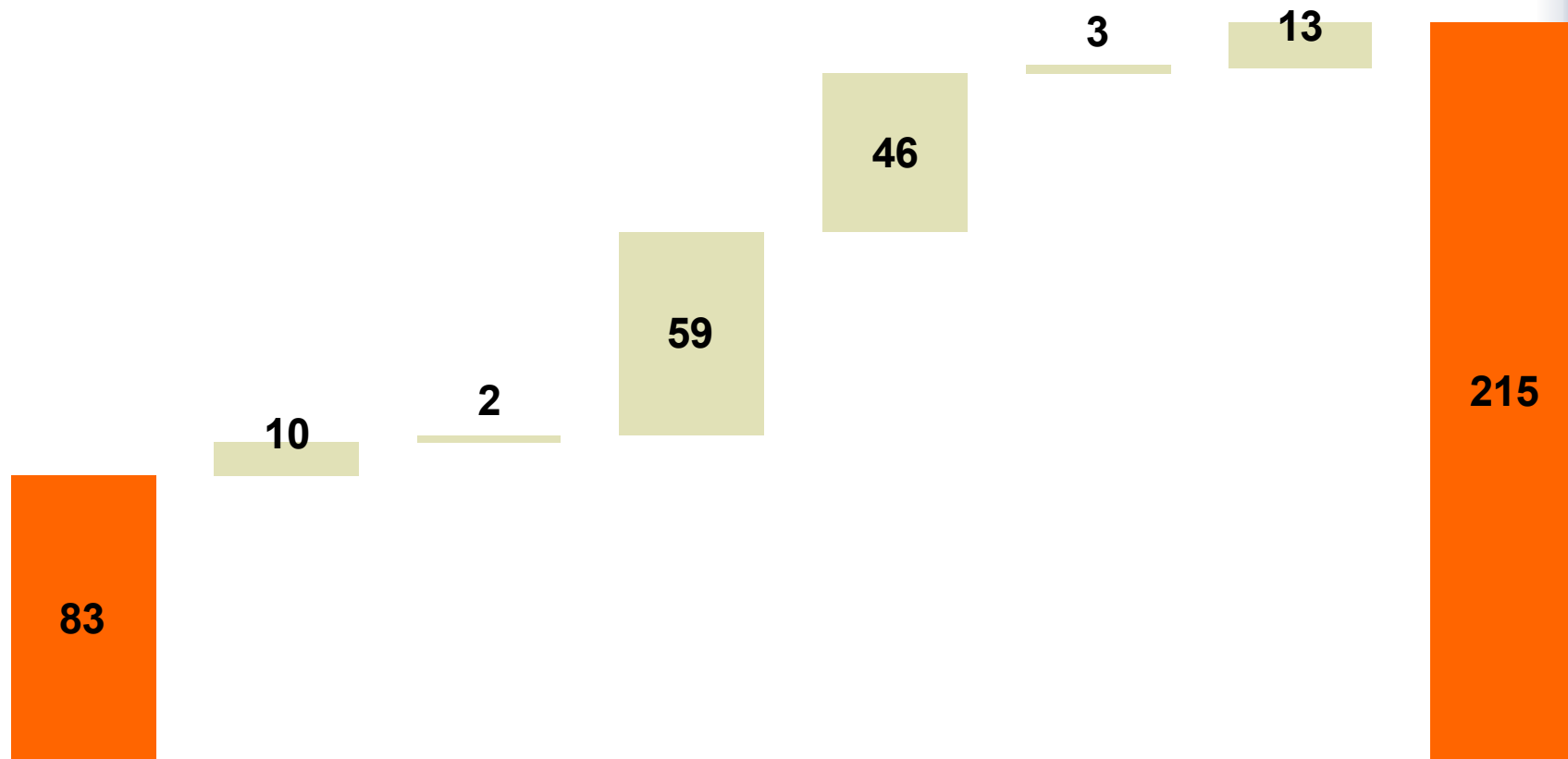
損益計算書 [7-9月期, 連結]

(億円)	'03 7-9月期	'04 7-9月期	増/(減)
売上高	5,323	6,256	933
営業利益	83	215	133
経常利益	101	234	134
特別損益	11	0	-11
当期純利益	67	143	75
在庫評価の調整	+10	-13	-23
調整後営業利益	93	202	109
石油部門 他	31	94	63
石油化学部門	62	108	46

営業利益の要因分析

[7-9月期業績の比較、2004年 vs. 2003年; 連結]

(億円)



'03 7-9月期
営業利益

'03 在庫評価損
(調整)

販売数量 マージン
石油製品

石油化学部門
収益

経費削減

'04 在庫評価益 '04 7-9月期
営業利益

キャッシュフロー、借入、資本 [連結]

(億円)

‘04 1-9月期 揮発油税調整後

営業活動 / 投資活動

209

421

■ 財務状態は引き続き改善

税引前当期利益	436
設備投資額 / 減価償却費	37
資産売却	112
たな卸資産	56
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	-171
法人税等支払い	-244
その他	-17

財務活動

-210

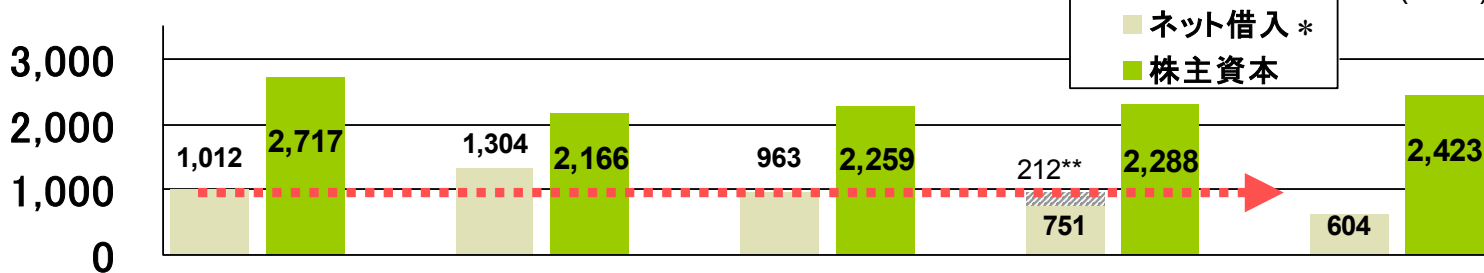
借入金の(増)減	-4
配当金の支払額	-206

現預金の減少

-1

9月末が平日だったため、1-9月期において揮発油税を1ヶ月分多く支払った結果、ネット買掛金(買掛金+未払揮発油税-売掛金)が212億円減少し、借入金と同額分増加

(億円) ‘01/12末 ‘02/12末 03/12末 04/9末 ‘04/12末 (予想)



ネットD/E レシオ : 0.37 0.60 0.43 0.33 0.25

* 現預金・貸付金・揮発油税等の影響を除いた借入金、**1ヶ月分の揮発油税の影響

特別損益 (連結)

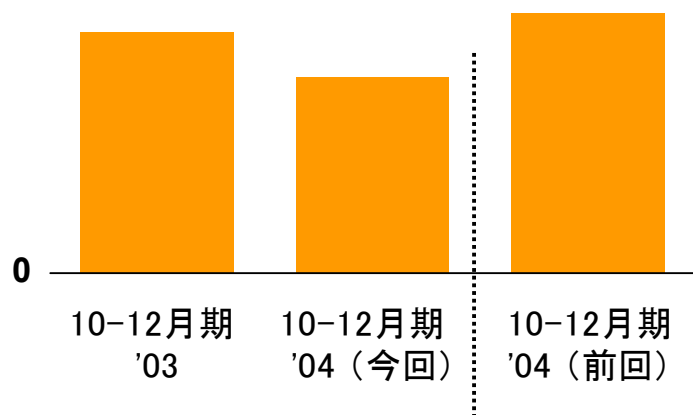
- 資産売却には、キグナス石油株式の予想売却益を含む
 - » 予想売却時期は本年12月初頭
- 固定資産減損会計の早期適用による損失額を含む
 - » 主にサービスステーションが対象
 - » 減損の予想金額は約30億円
 - » 2000年以降、不採算資産を売却し、資産の効率化に努めてきたことから、予想減損金額は比較的少額となった
- 東燃厚生年金基金の代行返上による特別利益を含む

(億円)	<u>'04 1-9月期</u>	<u>'04 通年予想</u>
資産売却(含む株式売却)	54	120
代行返上	0	50
早期退職一時金	(24)	(25)
固定資産減損会計	0	(30)
その他	(6)	(7)
合計	24	108

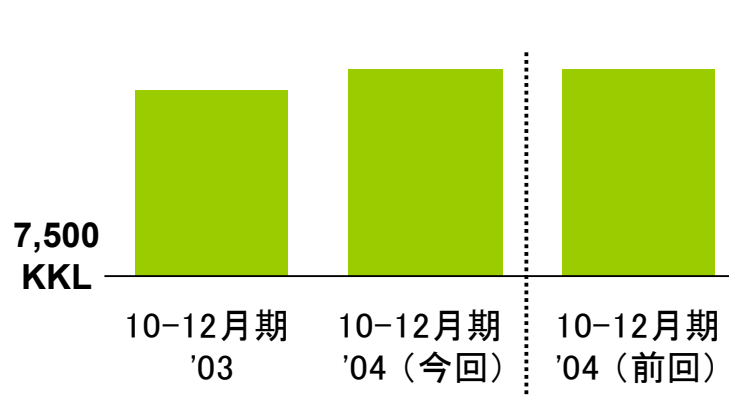
2004年第4四半期(10-12月)前提の修正

- 10-12月期マージン '03年10-12月期、前回予想(8月発表)より低い
- 10-12月期販売数量 前回予想から変更なし
- 10-12月期経費 基本的に前回予想から変更なし
- 在庫評価の損益への影響 現時点では通年で影響なしと予想
但し、価格変動が激しいことから、年末の原油/製品価格の動向によっては在庫評価損益が変動する可能性あり
[キャッシュ・フローへの影響はなし]
- 在庫評価方法/基準 後入先出法(LIFO)/低価法を継続
- 10-12月期石油化学製品 マージン/営業利益は前回予想より改善
- 原油価格・為替レート 37.5ドル/バレル(ドバイ), 111.1円/ドル -- '04年9月末の値
[売上高の計算のみに使用]

マージン単価(燃料油)



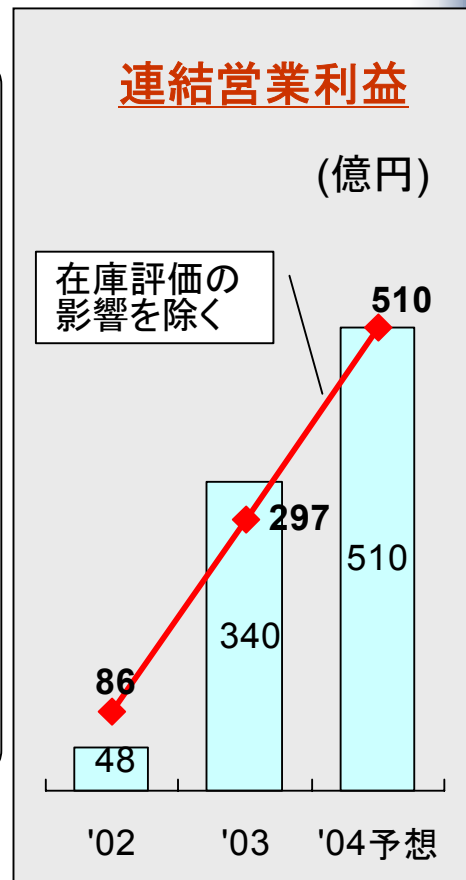
販売数量(燃料油)



通期業績予想の修正 [連結]

- 2004年通期の調整後営業利益は 2003年と比べて213 億円増加
- 石油化学マージンと石油収益の改善
- 経費削減は概ね予定通り

(億円)	'03 実績	'04 予想	1-9月期 実績	10-12月期 予想
売上高	21,353	23,300	17,030	6,270
営業利益	340	510	376	134
経常利益	384	550	411	139
特別損益	71	108	24	85
当期純利益	277	390	267	123
在庫評価の影響	-43	0	+5	-5
調整後営業利益	297	510	381	129
石油部門 他	96	135	116	19
石油化学部門	201	375	265	110



営業利益の要因分析

['04年修正予想 vs. '04年前回予想 (8月発表); 連結]

- '04年通期の営業利益は前回予想(8月発表)より130 億円増加
- 7-9月期が好調だったことから、通年の石油販売数量・マージンの小幅改善(10-12月期マージンは小幅悪化)を見込む
- 石油化学部門の収益改善
- 低硫黄燃料生産のため、触媒費用が当初見込みより増加したため経費の若干の増加を見込む

